

福機連北九州支部 総会・卓話会を開催

11月15日(金)16時からアートホテル小倉ニュータガワにおいて、会員11名が出席して福機連北九州支部の令和6年度総会が開催されました。

開会が宣せられた後、自見榮祐支部長から挨拶があり、副支部長に西竹浩一氏(戸畑新工業団地協同組合理事長)が選出されました。その後、西竹副支部長が議長に指名され、令和5年度の事業報告及び収支決算について事務局報告があり、続いて富澤善和監事から監査報告が行われました。さらに令和6年度の事業計画案及び収支予算案について審議し、いずれも原案どおり可決承認されました。



自見支部長



総会風景

続いて日本銀行北九州支店長 森下浩文氏による卓話会「現金流通、世界経済、北九州経済」が行われました。講演要旨をリポートします。

森下支店長は、今年6月に北九州支店へ着任されており、初代の高橋是清支店長から数えて58代目となります。発券局におられたこともあり、最初に「お札」の話から始められました。

現金流通 キャッシュレス化が進んでいるが、20年前の約80兆円から現在の約120兆円へと、現金流通残高は増えている。日銀北九州支店は、支払の方が還収よりも多く、北九州でおろされたお金が、福岡や東京等で使われて、それらの地の日銀本支店へ戻ってくるという傾向がある。

今年発行された新券の若い番号のお札は、一万円札は埼玉県深谷市や佐賀県唐津市等、また北里柴三郎の千円札は熊本県小国町等、それぞれ縁のあるところへ寄贈されて、展示されている。また、福沢諭吉の一万円札の最終製造札は大分県中津市等に寄贈されている。



森下日銀北九州支店長



卓話会風景

世界経済の成長について、1980年～2023年の44年間平均は、3.3%であった。2024年の見通しは3.2%で、国・地域別の内訳をみると、米国経済は先進国の中にあって2.8%と強い。一方、ユーロは0.8%と低くなっていて、ドイツの低調さが目立つ。中国は、5%を割り込み4.8%となっており、住宅不況が影響している。

北九州経済は、輸出が弱めの動きとなっている。自動車輸出は2023年までは好調に推移していたが、2024年に入って減少。当地域の輸出の半分を占める自動車が伸びていないことから、地域経済の回復ペースは鈍化している。雇用の面では、人口減少が続く中で、ひっ迫感が強まっている。

以上、わかりやすく解説していただきました。

引続き行われた交流会においては、福岡県北九州中小企業振興事務所長 渡部政明氏にご来賓挨拶をいただき、福岡県機械金属工業連合会会長の松本茂樹氏の乾杯の発声により懇談に入り、商工中金北九州支店長の井上尚洋氏に締めめの音頭を取っていただきました。